

はじめに

創立135周年記念事業会長
ゐのはな同窓会長

伊藤 晴夫



ここに135周年記念誌が上梓されたことは誠に喜ばしいこととあります。今回の事業は正式名を「新ゐのはな同窓会館設立（千葉大学医学部創立135周年）記念事業」と称し、この名称からも明らかな様に、建築後60年近くを経て老朽化し崩壊の危険がある同窓会館の新営が発端となりました。ゐのはな同窓会の渡辺武前会長が学生の為にも早期の実現を提案され、医学部長・医学研究院長，附属病院院長，事務長をはじめとする教職員の皆様方のご協力も得て，事業会の発足に至りました。時あたかも，千葉大学医学部が創立85周年を盛大に祝した記念講堂建立から50年が経過しました。最近，薬学部の移転も完了し，看護学部，真菌医学研究センター等とともに，亥鼻キャンパスに結集した医療系健康生命科学のますますの発展が期待されております。この時期における記念誌の刊行は大いに時宜を得たものであると考えます。

かつて刊行された千葉大学医学部八十五年史，千葉大学医学部百周年記念誌には，医学部，附属病院の歩みとともに，ゐのはな同窓会設立前後の幾多の困難も詳しく述べられております。今日，我々が当然のことの様に慣れ親しんでいるゐのはな同窓会も，そのあり方，構成が今の形をとるまでには先達の多大な労力が傾注され，その恩恵によるものであることが痛感されます。現在では，千葉大学ゐのはな同窓会は全国の医学部同窓会の中でも屈指の歴史と規模を誇ります。その輝かしい伝統に支えられ，今回の事業にあっても，経済不況，大震災等の渦中にもかかわらず絶大なご支援，ご協力を頂きました。また，連携医療機関，企業，後援会，現役の教職員等の皆様方からも多大なご芳志をお寄せ頂きました。おかげ様をもちまして，所期の目的である新ゐのはな同窓会館建設の着工も間近となり，この記念誌の刊行にも漕ぎ着けることができました。この紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

昨今，何かと若者の同窓会離れが話題になりますが，興味深いことに，35年前に刊行された百周年記念誌にも同じことが書かれております。いわば同窓会の属性の様な面もあり，何時の時代もそうなのかも知れません。他方，卒後研修の必修化に伴い，少なくとも一旦は母校を離れる卒業生が多くなった今日，同窓会の果たすべき役割はますます大きくなって来ていることも間違いありません。この135周年記念誌の刊行は，完成が待たれる新ゐのはな同窓会館の活用とも相俟って，学内外の多くの皆様方の絆をますます深めてくれることと信じます。この35年間を中心に医学部，附属病院，同窓会，関連施設・団体，課外活動等の歩みが多面的，多角的に活写された今回の記念誌を手に，来し方行く末に思いを馳せて頂ければ幸いです。最後に，記念誌出版委員会の瀧口正樹委員長をはじめ編集に携われた皆様方，ご寄稿頂いた皆様方に心から感謝申し上げます。